

目的

・平成30年4月から国保財政運営主体の都道府県化により利用が可能となった国保データと、平成27年度に包括連携協定を締結した協会けんぽのデータを合わせ、県人口の8割に当たる約110万人分の健診・医療・介護のビッグデータを一元的に活用し、県内20市町その他、保険者等関係機関と連携し、地域の特性に応じた効果的な疾病予防・健康づくり施策等を全県で展開する。

・県民の健康に対する関心を高め、健診受診など行動の変化を促し、健康寿命の延伸、医療費・介護費の抑制を目指す。

実施期間:H30年度～R5年度

事業内容

- 1 ビッグデータ活用県民健康づくり協議会の開催
構成員 12名(学識経験者、医療関係団体、健診団体など)
- 2 代表者会議の開催
構成:保健所健康づくり実践ワーキングチーム、分析ワーキンググループ 20名程度
内容:事業の取り組みやビッグデータの活用について協議を行う。
- 3 分析ワーキンググループ会議の開催
構成:5名(統計・公衆衛生の専門家)
内容:データ分析の内容や方向性を検討する。
- 4 ビッグデータ研修会の開催
対象者:市町、保健所、保険者等の担当者
- 5 ビッグデータ分析委託
健診・医療・介護等のビッグデータを分析し、健康面での課題等を見える化する。
委託先:愛媛大学
- 6 ビッグデータ活用地域健康づくり事業の実施(保健所事業)
各保健所に保健所健康づくり実践ワーキングチーム等を置き、保健所が市町とともに、ビッグデータ分析結果等を活用し、地域課題の抽出・対策等の検討の技術的助言や人材育成及び関係機関との連携強化を進め、地域の健康課題に応じた効果的な保健事業を展開する。

事業体系図

ビッグデータ活用県民健康づくり協議会

(年1回)

報告  助言等 

保健所実践ワーキングチーム代表者会議

(年1回程度)

ビッグデータ分析 ワーキンググループ

助言・支援等

情報共有
・連携

情報共有
・連携

松山市
保健所

四国中央保健所
実践ワーキング
チーム

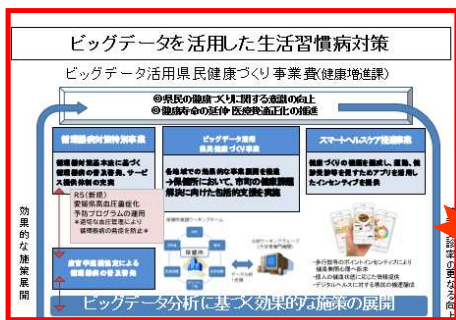
西条保健所
実践ワーキング
チーム

今治保健所
実践ワーキング
チーム

中予保健所
実践ワーキング
チーム

八幡浜保健所
実践ワーキング
チーム

宇和島保健所
実践ワーキング
チーム



ビッグデータを活用した生活習慣病対策

ビッグデータ活用県民健康づくり事業費(健康増進課)

◎市民の健康づくりに関する意識の向上
◎健康寿命の延伸・医療費適正化の推進

循環器病対策特別事業

循環器対策基本法に基づく
循環器病の普及啓発、サービ
ス提供体制の充実

R5(新規)
愛媛県高血圧重症化
予防プログラムの運用
*適切な血圧管理により
循環器病の発症を防止*

産官学連携協定による
循環器病の普及啓発

ビッグデータ活用 県民健康づくり事業

各地域での効果的な事業展開を推進
→保健所において、市町の健康課題
解決に向けた包括的支援を実施

保健所実践ワーキングチーム



分析ワーキンググループ
(大学等専門機関)
データ分析
・支援

スマートヘルスケア推進事業

健康づくりの機運を醸成し、運動、
健診受診等を促すためアプリを活用
したインセンティブを提供



- ・歩行数等のポイントインセンティブにより健康無関心層へ訴求
- ・個人の健康状態に応じた情報提供
- ・デジタルヘルスに対する県民の機運醸成

効果的な施策展開

健診受診率の更なる向上

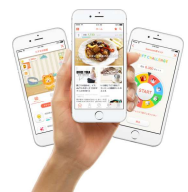
ビッグデータ分析に基づく効果的な施策の展開

事業開始から前半3年間（H30年度～R2年度）のトピックス

- 当初の3年間は、データ分析を中心に、現状・課題把握
 - ・「人材育成」「情報提供」「体制構築・環境整備」をモデル保健所で実施
 - ・保健所が管内の問題を把握、課題をつかみ、課題に対して事業の棚卸を実施
 - ・分析事業の実施
 - ⇒県の健康課題は高血圧！（特に男性は全国第8位）
 - 高血圧には地域偏在がある（宇摩・宇和島圏域では多く、松山圏域で少ない）
 - 高血圧（収縮期血圧の上昇）に影響を与える生活習慣は、肥満・毎日飲酒・朝食欠食！
- 課題を見える化し、県民への情報発信（ビッグデータ通信の発行）
- スマートヘルスケア推進事業を開始（R2年～R5年予定）
 - ⇒スマートフォンアプリを利用した効果的な疾病予防の取り組みを推進するため、国保被保険者を対象に全市町で実施
- 心不全対策として産官学連携プロジェクトを開始（R2年～R5年予定）
 - ⇒愛媛県と愛媛大学とノバルティスファーマ（株）による産官学連携協定を締結し、県民に向けた循環器病疾患の啓発を実施

事業開始から後半3年間（R3年度～R5年度）のトピックス

- データ分析（現状・課題把握）中心の取組から、後半の3年間で、各地域での効果的な保健事業が実践できることを目指し、その体制づくりや人材育成にシフト
- 分析ワーキンググループ委員の先生方の専門性を活かした各地域での人材育成や保健事業展開を支援（各保健所で研修会を展開し、講師として委員が参加）
- 各地域の健康づくり事業を積極的に推進するため、保健所事業の横展開のための情報交換・意見交換の場として、担当者会を開催
- 愛媛県循環器病対策推進計画を策定。同計画に基づいた対策や取組と連動して事業を推進第2期県計画を準備中
- 産官学連携プロジェクトを延長（R5年～R7年に延長）
 - ⇒普及啓発を継続、かかりつけ医との予防のための連携体制を支援



令和5年度の取組み

- 1 ビッグデータ活用県民健康づくり協議会(R6.2.22)
 - 2 ビッグデータ活用県民健康づくり代表者会議(第1回R5.6.28、第2回R6.1.19)
 - 3 分析ワーキンググループ会議の開催 (7回+R6.3.8に8回目開催予定)
 - ・データ分析方針、データの見方や解釈の検討等を実施
 - ・研修会の企画・支援・助言
 - ・データの見える化、情報発信について
 - 4 ビッグデータ研修会の開催⇒別添 1
 - 第1回 R5.11.7WEB開催 「愛媛県の現状」「脳卒中治療の最前線・脳卒中発症予防について」
 - 第2回 R6.1.12WEB開催 「各地域での取組み報告」「グループワーク」「レーダーチャートについて」「kencom分析報告」
 - 5 ビッグデータ分析 ⇒報告1「ビッグデータ分析について」
 - 6 ビッグデータ活用地域健康づくり事業の実施(保健所事業)⇒別添 2
 - 7 ビッグデータ保健所担当者会の開催(R5.5.8開催)
- スマートヘルスケア推進事業 ⇒別添 3 報告2「kencom分析について」
- 愛媛県循環器病対策推進計画に基づく取組み ⇒別添 4「愛顔のハート・学び体験」

6年間のビッグデータ活用県民健康づくり事業の意義

○6年間の各役割と成果

【本庁】

- ・事業推進体制を整備(協議会、WG、代表者会議)、人材育成(各地域でデータ活用・事業展開ができる人材育成)、県の健康課題を明確化し県民に情報発信
- ・BD事業から各種施策が派生(スマートヘルスケア推進事業、循環器事業等)

【保健所事業】

- ・分析結果⇒健康課題の特定⇒事業の棚卸⇒各保健所のWT会議で課題を共通認識⇒研修⇒市町・保健所事業計画立案⇒事業実施⇒評価⇒事業改善
- *PDCAサイクルに基づく事業を展開 市町の健康づくり事業を伴走支援
- *6年間で健康課題が明確となり、課題に対する事業の実施、それに伴う他課と連携した健康づくりの体制の構築まで実施に至っている市町ができてきた
- *各保健所と管内市町との両輪の関係(互いの距離が近く相談・連携しやすい関係)ができつつある

【分析WG】

- ・データ分析及び健康課題を見える化し報告書を作成⇒効果的な対策を検討
- ・年々分析項目が増加し、多様な状況を報告⇒保健所、市町がデータを地区診断、課題を明確化し各種研修、事業評価等に活用
- ・保健所事業を強く支援(研修会講師、事業の助言)

ビッグデータ活用県民健康づくり事業 ロードマップ

